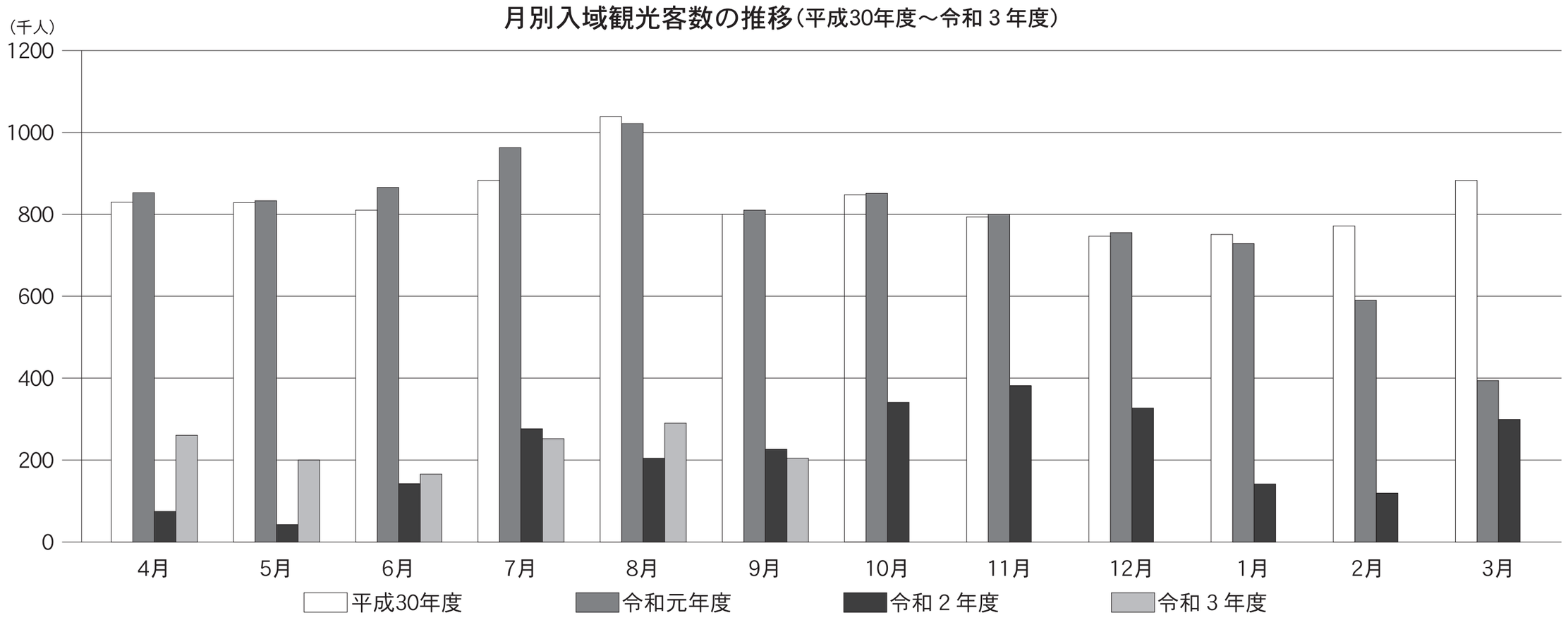
令和３年度上半期　沖縄県入域観光客数

過去最大減の前年から増加に転じる

月別入域観光客数の推移（平成30年度～令和３年度）



令和３年度上半期入域観光客の状況（令和２年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
増減数	185,300	151,200	18,800	－26,900	85,400	－22,700	391,100
増減率	239.7%	343.6%	13.0%	－9.7%	42.1%	－10.0%	40.2%

令和３年度上半期国内観光客の状況（令和２年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	262,600	195,200	162,900	250,400	288,200	204,900	1,364,200
令和2年度	77,300	44,000	144,100	277,300	202,800	227,600	973,100
増減数	185,300	151,200	18,800	－26,900	85,400	－22,700	391,100
増減率	239.7%	343.6%	13.0%	－9.7%	42.1%	－10.0%	40.2%

令和３年度上半期外国人観光客の状況（令和２年度上半期との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
増減数	0	0	0	0	0	0	0
増減率	－	－	－	－	－	－	－

国際通り

ゆいレール（沖縄都市モノレール）

守礼門

調査データ

県調べ

前年同期比40.2％増の136万人

コロナ禍前比は74.5％減に

沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課はこのほど、令和３年度上半期（４～９月）の入域観光客統計概況を発表した。同期の入域観光客数は136万4200人で、前年同期比40・2％増（39万1100人増）と、過去最大の減少となった前年同期から増加に転じ回った。

ただ、新型コロナ禍前の令和元年度同期比は74・5％減（398万4400人減）と、依然厳しいままだ。

このうち国内観光客は、航空機の減便規模の縮小や、羽田―那覇路線などで増便があったことなどから、増加となった。

下半期（10月～来年３月）について同県は、「ワクチン接種の普及と併せ、国においてワクチン接種・検査陰性証明を活用した実証実験が行われるなど経済活動の再開に向けた取り組みが実施されていること、Ｇｏ Ｔｏトラベル事業の再開が検討されていることなどから、旅行需要の回復が期待されるものの、感染状況の影響を受けることが予想されるため、動向を注視していく必要がある」としている。

特に４月から５月は、前年は全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、今年は措置が適用による移動自粛のことなどから、増加となった。

要請が一部地域であったことなどから、増加となった。

下半期（10月～来年３月）については、「ワクチン接種の普及により、海外では外国人観光客の受け入れ再開を行う国が徐々に増えてきているが、わが国においては入国制限措置が継続されており、当面厳しい状況が予想される」としている。

一方、外国人観光客は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、前年の４月３日以降、台湾、中国、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続きゼロとなった。